



校長室だより

八代市立八代小学校
校長 村嶋 博史

学校教育目標 「自ら学ぶ子供」

R5,5,25 No,7

挨拶は自分から先に心を開く行為

本校では、学校教育目標である「自ら学ぶ子供」の育成に向けた土台づくり（八代小ベシック）として「やつしろスピリッツ」（あいさつ・ききかた・そろえかた）及び「自分の心に線を引く」の取組の徹底を学校総体で行っているところです。

その中の「あいさつ」の現状や取組等についてお伝えします。

挨拶の「挨」（あい）の訓読みは「ひらく」で、意味の一つに「近づく」があります。また、「拶」（さつ）の訓読みは「せまる」で、意味の一つにこちらも「近づく」があります。つまり、挨拶とは、「自分から心を開いて、相手に迫り、お近づきになる」という行為だと考えられます。よって、「自分から先に挨拶をする」（自分から先に心を開く）ことを大切にすべきだと思います。

人間関係を築く上でとても重要な行為である「挨拶」を、子供の段階から身に付けてほしいと願い、本校では、全職員が率先垂範しその良さを伝えたり、校内で数多く挨拶を交わすことで習慣化させたりしています。

また、昨年度の児童会が「一中校区あいさつレベル」を基に作成した「八代小あいさつレベル」を、今年度の児童会も広めようと頑張っています。

目指すは、「地域でいつでも誰にでも気持ちのよいあいさつをする子供」づくりです。（あくまで学校は、練習の場と位置づけています）

さらに、今年度の一中校区にある六校園（代陽・松高幼稚園、代陽・松高・八代小学校、第一中学校）のローガンは、「元気のよいあいさつ」で、その推進に向けた様々な取組が企画されているところです。

校区住民自治会の青少年部やPTAの方でもあいさつの推進に力を入れられています。

このように、校区・地域・家庭・学校が一つになって、子供の挨拶の推進に取り組んでいることは大変意義深いと思っています。

ご家庭でも、お子様に、「地域でいつでも誰にでも気持ちのよいあいさつをしよう」とお声かけいただくとともに、そういう姿を見られましたら大いに褒めてあげてください

八代小あいさつレベル

- レベル1: 自分から
- レベル2: 自分から 目を見て
- レベル3: 自分から 目を見て 大きな声で
- レベル4: 自分から 目を見て 大きな声で 笑顔で
- レベル5: 自分から 目を見て 大きな声で 笑顔で 立ち止まって

児童会作成の「八代小あいさつレベル」

子育て一口メモ 「達成感が子供を伸ばす」

幼児教育家 はやし浩司

「やったー!」という達成感が、子供を伸ばす。そんなわけで子供のうちは、(できる・できない)という視点ではなく、(がんばってやった・やらない)という視点で子供を見る。たとえ間違っている、あるいは不十分であっても、子供ががんばったようなら、「よくやったね」とほめて終わる。こまごまとした神経質な指導は、子供をつぶす。

※本校では、結果や達成のみならず、「挑戦」したことを褒めるようにしています。そうすることで、褒める機会を増やし、全ての子供に自己有用感を育てています。